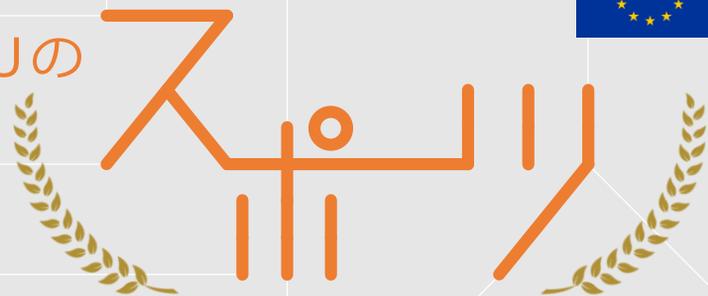


魅せる・競う・繋がる EUの

ARCHERY アーチェリー



EUのアーチェリーは、いま



1931年にポーランドで世界アーチェリー連盟（現在の World Archery）が結成され、スポーツ界におけるアーチェリーの普及や国際試合の開催が推進されました¹。

EUでは、仏アーチェリー協会の指揮のもと、1988年にパリでWorld Archery Europe の総会が初めて開催され、EU各国が参加しています²。

もともと弓矢とは縁のあったEU地域においてアーチェリーは親しまれ、世界大会においても数多くの選手が活躍しています。

オリンピックでは韓国やアメリカの選手の活躍が目立ちますが、2016年のリオ大会では、男子個人でフランスのヴァラドン選手（右）、女子個人でドイツのウンルー選手が銀メダルを獲得しています。



（画像出典）World Archery ホームページ
<https://worldarchery.org/ccrdnhb?EnId=6403>

※1 World Archery ホームページ <https://worldarchery.org/World-Archery#HISTORY> (2017/6/8閲覧)

※2 World Archery Europe ホームページ <http://www.archeryeurope.org/index.php/wae/history> (2017/6/8閲覧)

アーチェリーを知ろう



↑ターゲットで
使用される的

アーチェリーは、弓で矢を射ち、遠くにある標的上の得点を争う競技です。矢のスピードはおよそ時速200~230kmにも達します。弓を引き矢を放つという一見シンプルなスポーツですが、高度な集中力や知的作業を必要とする、奥深い競技です。

アーチェリーの弓は、オリンピックや国体などで使われるリカーブボウと、弓の上に偏心滑車のついたコンパウンドボウの2種類があります。また競技について、ターゲット、フィールド、インドアの3競技が行われています。オリンピックではターゲットが実施されています³。

またアーチェリーは老若男女問わず誰でも競技楽しむことができ、生涯スポーツとしても人気です。

※3 公益社団法人全日本アーチェリー連盟ホームページ「アーチェリーについて」
<http://www.archery.or.jp/sports/archery/> (2017/6/7閲覧)

アーチェリーの歴史

アーチェリーは紀元前2万年頃、**狩猟**のために弓矢を使用したのが始まりとされています³。その後古代ローマ帝国や中世ヨーロッパの時代には、**武器**としての重要性が高まり、特に**イギリス**の長弓部隊はよく訓練されていて、当時の敵国から恐れられていました⁴。そのイギリスではたびたび**法律**による**弓術の奨励**や、**法規**による**弓具材料の輸入保護**が行われていました⁵。



スポーツとしてアーチェリーが普及したのは、1538年に**イギリス国王・ヘンリー8世**（右）が御前試合として大会を催したのがきっかけです⁵。

イギリスのこのような動きを反映して、ヨーロッパ各地でもアーチェリーがスポーツとして台頭しました。1972年からは正式に**オリンピック種目**に復活し、今では世界中の沢山の人が親しまれてるスポーツとなっています⁶。

- ※ 4 千代豪昭「『弓随想』弓道愛好家がアーチェリーを理解するために～弓の文化論～」メディカルドゥ、2017年、p.45
- ※ 5 鈴木正「アーチェリーの発達について」『一橋大学研究年報 自然科学研究』第15巻、p.1-57
<http://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/rs/bitstream/10086/9459/1/HNshizen0001500010.pdf> (2017/6/9閲覧)
- ※ 6 Summer Olympic Sport ホームページ <https://www.olympic.org/archery> (2017/6/9閲覧)

本の紹介



「弓随想」弓道愛好家がアーチェリーを理解するために～弓の文化論～
著：千代豪昭 発行：メディカルドゥ 2017年
☞本館3階【7800:1998】

弓道とアーチェリーに親しんだ著者が、世界中の弓文化に触れた経験や医師としての視点から、両者の違いについてわかりやすく記した随筆です。

文化や科学の面から弓の世界を見ることはとても新鮮で、和弓や洋弓の初心者から上級者まで楽しみながら読むことのできる本となっています。

自己紹介



- ・中村真梨
- ・法学部3年、アーチェリー部所属
- ・写真右はよく部室にきている猫ちゃん♪

